

TKT0021

# がま口コインケース(80×75×D24mm)

100円玉×30枚ぐらい納められる使い勝手の良いサイズのコインケース。井桁状に編んだ樹皮ベルトは布のように自由に形を変えては扱えず、口金にぴったり接合したり、開いた口部分をうまく開く処理は容易ではないので、制作上の諸問題を解決しつつ、無駄を省いた最もシンプルなデザインを編み出しました。



【完成サイズ】: 約 80×75×D24mm  
 【面取り作業】: 必須  
 【なめし作業】: 必須  
 【制作時間】: 約 3 時間  
 【動画視聴】: あり

## 【スペック】

□ベルト(約 W14×L320×6 本、約 W14×L240×7 本、約 W14×L180×3 本)  
 □予備ベルト  
 □口金(セリア)×1 個  
 □レシピ(本紙)

## 【必要な工具】

### < 必須工具 >

□ラスタ □木製ピンチ □ハサミ □定規 □鉛筆  
 □なめし道具(オリーブオイル、タオル、小皿) □楊枝  
 □ポンド(セメダイン社スーパーXゴールド(XG) <推奨>)

### < 状況により必要となる工具 >

□カッター □輪ゴム

## 【動画視聴方法】

YouTube を視聴できる最新のブラウザ、オペレーティング システム、良好なインターネット接続が必要です。PC 操作方法や動画操作手順はサポート外ですので、お身内やご友人などお分かりになる方にお聞きください。  
 ※最新バージョンの Google Chrome、Firefox、MS Edge、Safari、Opera  
 ※500 Kbps 以上のインターネット接続システム要件



タブレットやノート PC などの環境で閲覧いただくのが一番オススメですが、それほど古くない普通のスマホ(らくらくフォンなど制限のあるものは除く)をお持ちであればほとんど問題ないと思われます。ただ画面が小さいのでわかりにくい箇所もあるかもしれません。  
 ※動画 URL を一般に公開することを固く禁じます。  
 ※休会・退会された場合は、視聴することができなくなります。

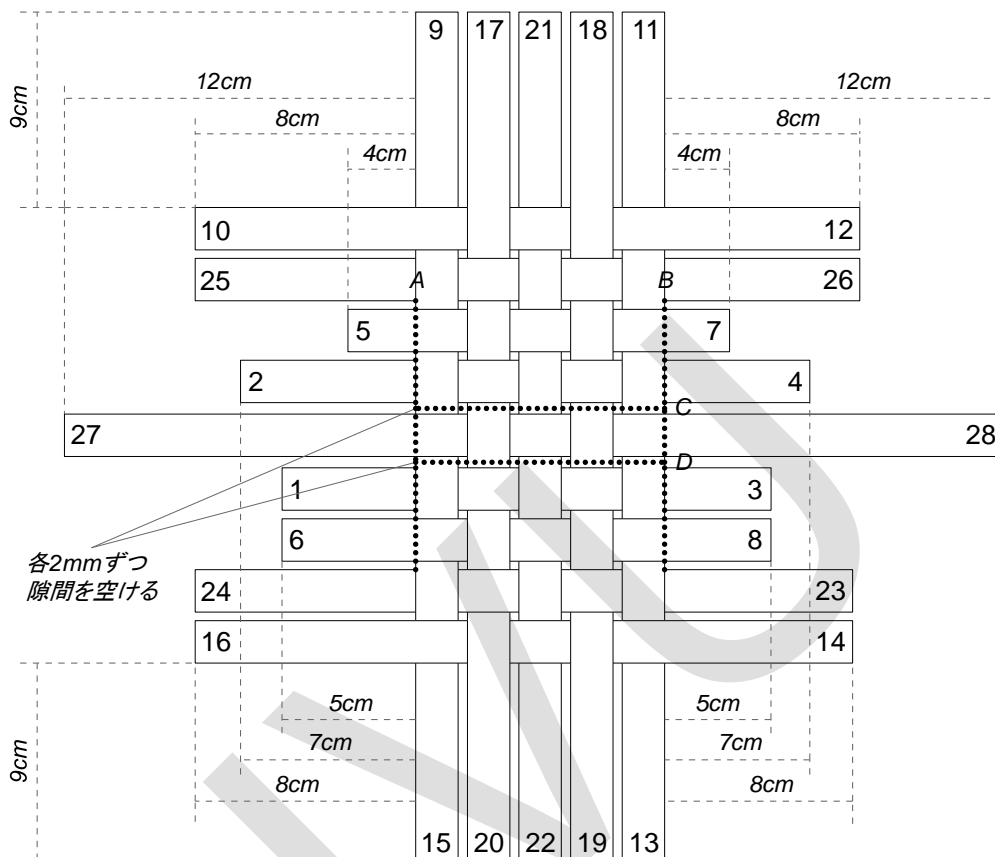
## 【制作前に一読ください】

- 本紙を参照しつつ、**動画解説に主軸を置いて進めていきます。**  
また、講座修了者を対象としているので、基本的な工程は解説を省略していることがあります。
- 制作前には、「**スペック**」や「**必要な工具**」が揃っているか確認ください。
- 本作品は、「**かご型**」に属します。  
以下に大別される手順にしたがって作業を進め、完成を目指しましょう！  
「**井桁状に並べる ⇒ 編み上げる ⇒ フチで折り返す ⇒ 始末する ⇒ 本体と口金を合体**」

## 1. 井桁状に並べる

1-1. 先端にスタンプされた番号のベルトを表側（赤印が付いている側）にして図①のように「縦 5 × 横 9」で井桁状に並べます。  
※図①は説明上、数字がみやすいように表記してあります。実際ベルトにスタンプされた数字の向きは異なります。

1-2. まず、中心で交差する(21-22)と(27-28)のベルトの重ね順を間違えないように重ね合わせます。  
ここで間違えると以降の解説は参考にならなくなります。



図①

1-3. あとは順番に、対応する番号がついたベルトを上下左右と順番に井桁状に並べていきます。  
またこの際、(1-3)と(27-28)の間と(2-4)と(27-28)の間は目を詰めずに、2mm ほどわざと隙間を開けておきます。  
その他のベルトはまだこの時点ではしっかりと寄せません。

1-4. ある程度目を詰めたら、井桁状に交差していない飛び出たベルトを図①の寸法を参考に調整します。  
調整が終わったら、(1-3)と(27-28)の間と(2-4)と(27-28)の間以外のベルトの目をしっかりと詰めます。  
ここで、目が緩んでいると最後に口金に入りません。

## 2. 編み上げる

組み上げた樹皮ベルトを裏返します。(数字や赤い印が付いている側を裏面にする)

2-1. 図①の点線 A,B,C,D に沿って定規をあて、手前に完全に折り曲げ、しっかりと折り跡をつけます。  
点線が付いていないベルトには一切手を付けないように気をつけましょう。

点線に沿って、4 辺を内側に折り曲げ立ち上げます。  
※以降、例えば「1」と記載の場合は、ベルト先端に「1」とスタンプされたベルトの処理方法を解説します。

2-2. 「1」を 90 度に 2 回内側に折り曲げながら、対面の内側の隙間に 1 マス差し込む。  
この際に、差し込んだマスの先で「1」の先端が飛び出るようであれば差し込む前にハサミでカットするなどして調整。

「2」を 90 度に 2 回内側に折り曲げながら対面の外側の隙間に 2 マス差し込む。

2-3. 「3」を 90 度に 2 回内側に折り曲げながら対面の内側の隙間に 1 マス差し込む。  
この際に、差し込んだマスの先で「3」の先端が飛び出ようであれば差し込む前にハサミでカットするなどして調整。

「4」を 90 度に 2 回内側に折り曲げながら対面の外側の隙間に 2 マス差し込む。

2-4. 「5」を 90 度に 2 回内側に折り曲げながら対面の内側の隙間に差し込む。  
この際に、差し込んだマスの先で「5」の先端が飛び出ようであれば差し込む前にハサミでカットするなどして調整。

「6」を 90 度に 2 回内側に折り曲げながら対面の外側の隙間に 1 マス差し込む。

2-5. 「7」を 90 度に 2 回内側に折り曲げながら対面の内側の隙間に差し込む。  
この際に、差し込んだマスの先で「7」の先端が飛び出ようであれば差し込む前にハサミでカットするなどして調整。

「8」を 90 度に 2 回内側に折り曲げながら対面の外側の隙間に 1 マス差し込む。

---

### 3. フチで折り返す

---

3-1. 「9」をフチに沿って 90 度手前に折り曲げる。  
その上から「10」をフチに沿って 90 度手前に折り曲げ、木製ピンチで留める。

3-2. 「11」をフチに沿って 90 度手前に「10」の先端を包みながら折り曲げる。  
その上から「12」をフチに沿って「10」のベルトを包みながら 90 度手前に折り曲げ、木製ピンチで留める。  
この際、「10」のベルト先が「12」で折り曲げるフチより長かった場合は、事前にカットする。

3-3. 「13」をフチに沿って 90 度手前に折り曲げる。  
その上から「14」をフチに沿って 90 度手前に折り曲げ、木製ピンチで留める。

3-4. 「15」をフチに沿って 90 度手前に「14」の先端を包みながら折り曲げる。  
その上から「16」をフチに沿って「14」のベルトを包みながら 90 度手前に折り曲げ、木製ピンチで留める。

3-5. 「17」、「18」、「19」、「20」をフチに沿って 90 度手前に折り曲げ、2 マス目の隙間に差し込む。

3-6. 「21」、「22」をフチに沿って 90 度手前に折り曲げ、1 マス目の直下の隙間に差し込む。

3-7. 「9」、「11」、「13」、「15」、および「17～22」のベルトをもう 1 マスずつ隙間に差し進める。

3-8. 「23」、「24」をフチに沿って 90 度手前に折り曲げ、1 マス目の直下の隙間に差し込む。  
「23」をさらに 2 マス隙間に差し進め、「24」の下に先端を収める。  
この際、長さがあり差し込みづらい場合は、先端を短くカット＋面取りして差し込む。  
「24」を 2 マス差し進め、フチから出たベルトはカットする。

3-9. 「25」、「26」をフチに沿って 90 度手前に折り曲げ、1 マス目の直下の隙間に差し込む。  
「25」をさらに 2 マス隙間に差し進め、「26」の下に先端を収める。  
この際、長さがあり差し込みづらい場合は、先端を短くカット＋面取りして差し込む。  
「26」を 2 マス差し進め、フチから出たベルトはカットする。  
「29」と「30」がスタンプされた未使用のベルトを用意ください。

3-10. 「29」を赤印が付いていない面を表にして、本体下段から数えて 2 段目の側面(5-7,6-8)の隙間に差し進めていく。ただし、マチ面(27-28)は、隙間には通さず、そのまま上から覆って反対側の隙間に差し回していく。  
一周したらそのまま始末せず、次に進む。

3-11. 「30」を赤印が付いていない面を表にして、本体下段から数えて 1 段目の側面(1-3,2-4)の隙間に、ぐるりと反対側まで差し進めていく。一周したらそのまま始末せず、次に進む。

---

## 4. 始末する

---

- 4-1. 「27」をフチに沿って 90 度手前に折り曲げ、2 マス目の隙間に差し込む。
- 4-2. 「28」をフチに沿って 90 度手前に折り曲げ、2 マス目の隙間に差し込む
- 4-3. 「27」、「28」を、本体底面のマスの隙間に差し進め、出会った先端のどちらかを下に差し込み、上になったベルトの先端が隙間から出ないように長さを調整して最後の一差して始末する。
- 4-4. 「29」、「30」のベルトも出会った先端のどちらかを下に差し込み、上になったベルトの先端が隙間から出ないように長さを調整して最後の一差して始末する。
- 4-5. 「9」、「11」、「21」のベルトを底面の隙間に通して反対側に差し回していく。
- 4-6. 「13」、「15」、「22」のベルトを底面の隙間に通した時、先端が出ないようにハサミでカット+面取りしてから差し込み始末する。
- 4-7. 「17」、「18」のベルトをそれぞれ「19」、「20」のベルトの下の隙間に先に差し込み始末する。続けて、「19」、「20」の先端が隙間から出ないようにハサミでカット+面取りしてから差し込み始末する。
- 4-8. 「12」、「16」の飛び出た先端を根元でカットして本体が完成。

---

## 5. 本体と口金を合体

---

- 5-1. 完成した本体を口金に仮差し込みして、サイズを確認する。
- 5-2. 確認ができれば、本体を口金から取り外し、本体上部 4 か所の端を幅 5mm ほどで 45 度にカットする。カットすることで、口金の緩やかなカーブにフィットさせられる。
- 5-3. 楊枝などを使って、口金と本体部が接する箇所にボンドを塗り込む。2 分ほどたったら、本体を口金の下からゆっくりと差し込んでいく。  
※樹皮面が口金から外れていないか内側外側全体をよくチェックしながら慎重に差し込む。  
※はみ出たボンドは拭き取らず、乾いた後にむしり取った方がきれいに処理できます。
- 5-4. 最後まで差し込めたら、念のため、口金を開け閉めするなど動作確認を行い、輪ゴムでしっかり固定して 30 分ほど放置。完全にボンドが乾いたら完成。